



工藤 秀子 議員

**質問1** 「社会福祉調査員活動支援」の事業内容は

**市長** 高齢者世帯への訪問調査等を行っている

## 一般質問

**問** 第2次北斗市総合計画の令和2年度実施計画において、主要施策「助け合い支え合う活動の推進」の「社会福祉調査員活動支援」及び主要施策「地域包括ケアシステムの推進」の「介護予防・地域支え合い事業」について、コロナ禍の中で大変だと思いますが、事業内容をお知らせください。

**答(市長)** 「社会福祉調査員活動支援」の事業内容については、高齢者世帯への訪問調査が主なもので、そこで得られた情報は、社会福祉協議会が実施する歳末福祉見舞金の配分や、福祉五目ちらし配付事業、サンタクロス活動事業の対象者把握などに活用されています。

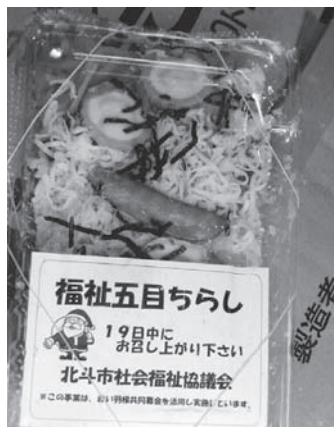
また、市が実施する「ふれあい入浴券」の配布も行っています。

「介護予防・地域支え合い事業」の内容については、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう介護保険サービスと組み合わせ、主に4つの事業「布団乾燥サービス事業」、「除雪

サービス事業」、「生活管理指導員派遣事業」、「高齢者食生活改善事業」を実施しています。

**問** 社会福祉調査員は民生委員とは別なものなのか。また、調査員になるための資格、条件等はあるのか。

**答(社会福祉課長)** 現在、基本的には民生委員が社会福祉調査員となっています。なお、民生委員がない場合については、適任と認める方を任命しています。



配布事業の福祉五目ちらし

**質問2** 「ライン」の公式アカウントを開設しては

**市長** 本市においても有効な活用策の検討を継続してまいりたい

極的に届けるよう、通信アプリ『ライン』の公式アカウントを開設しては」と提案がありました。

市としてのお考えをお知らせください。

**答(市長)** 行政が発信する情報は、その重要性や緊急性などの性質に応じて、提供方法の在り方を十分考慮する必要がありますと認識しており、庁内で毎月開催している情報発信戦略会議において、効率的かつ効果的な情報発信方策を検討し、発信する情報の種類や目的に応じた情報媒体の活用を検討しています。

例えば、災害等の緊急情報は、一人でも多くの市民に一斉に伝達することが重要です。緊急速報エリアメールの方が効果的ですし、観光やイベントなどの情報はすでに渡島総合振興局で開設し、一定の登録者数を有する観光情報のライン公式アカウントを活用する方が効率的であると考えています。

一方、最近では、ラインを活用して人工知能、いわゆるAIが市民の方々からの問い合わせに自動的に回答するシステムの研究等も進められており、ソサエティ5.0の実現に向けた新たな行政サービスとして、注視しています。

まずは、広報誌とホームページを基軸としながら、情報発信の強化に向けた職員のスキルアップを図るとともに、すでにラインを活用している道や他団体の実

績、効果等を検証し、本市においても有効な活用策の検討を継続してまいりたい。

**問** 市では、子育てアプリを活用しているのか。

**答(企画課長)** ラインについては、大変普及しており、情報、メッセージを共有する活用が最も多く、特に一度読むとそれが「既読」という形で表示され、非常に使いやすいことで人気があるのだと思います。

一方で、公式アカウントとして情報発信するとなると様々な媒体がありますので、ラインありきではなく、その特徴を生かし、効果的な媒体を使って発信していくことが必要だと思えます。



ほくと子育て応援アプリ「ママフレ」